

えさし



多数の来賓や同窓生が出席した思い出を語る会

来年4月から岩谷堂高校と統合する岩谷堂農林高校（佐々木淳校長、生徒175人）で10月24日、生徒、職員のほか同窓生、元職員らが出席して「思い出を語る会」が開かれました。統合記念事業実行委員会（会長・伊藤忠雄同窓会長）が主催し、歴代校長やPTA会長らへの感謝状贈呈、同窓生2人により「屋根がまだ付いていない講堂での入学式」などのエピソード披露が行われました。

同校の前身は、地元住民の熱意で昭和18年に創立された県立岩谷堂農林学校。以後、学制改革や統合・分離などで5回の名称変更を経て、11937人の卒業生を世に送り出しています。

1万2千人の思い出を胸に
統合控えた岩谷堂農林高校で語る会

まちの話題



自慢の鍋で「味」な戦い展開

なべ合戦で衣川の元気さアピール

岩手・宮城内陸地震の風評被害を吹き飛ばそうと、奥州ころもがわなべ合戦が11月1日、衣川区の東北ニュージールランド村で行われました。

「なべ合戦」とは、古戦場跡にちなんで名付けられたもので、参加8団体が腕を奮った1600食分の鍋を来場者に振る舞い、早く完食となった団体を勝ちとするものです。さわやかな秋晴れの下、会場では歴史講談、歌謡ショーなど多彩な催しも開かれ、行楽客らで終日にぎわいました。

このイベントは、地震の影響で中止された奥州ころもがわ祭りに代わり「衣川の元気」をアピールしようと企画されたもの。区内の産直施設や婦人会などが、地元食材を使用し、趣向を凝らした鍋で味の合戦を繰り広げました。振る舞い開始前から引換券を手にした来場者が長い列を作り、用意された鍋は30分ほどで完食となりました。



鍋の味を楽しむ家族らでにぎわった会場。ボクにはまだ早いかな？

いさわ

胆沢の出来秋を1日で満喫

恒例のいさわ商工秋まつり



人気を集めた焼肉の振る舞い

いさわ商工秋まつり（同実行委員会主催）は11月1日、胆沢文化創造センターで開催されました。

中庭では区内の商工業者の出店が軒を連ね、商品の展示即売を行ったほか、親子輪投げ大会、地元や前沢区によさこいチームによる演舞などが行われ、活気に包まれました。またジャンボフライパンで作る胆沢産の豚焼肉の振る舞いには、おいしそうな香りに誘われて長蛇の列ができていました。

屋内ではいさわ生涯学習フェスティバルが併催。住民の書道や手芸など日ごろの創作活動の成果が発表され、訪れた人たちは胆沢の秋を満喫していました。

夫婦愛を主題に創作市民劇

偉人支えた斎藤春子の生涯を回想

斎藤實の妻・春子の激動の生涯を回想する創作市民劇「陽だまりのなかの春子さん」の旗揚げは10月31日、主な出演者やスタッフ約40人が出席して行われました。

この市民劇は、斎藤實生誕150年記念公演として行われるもので、原作は作家で盛岡市出身の松田十刻さん、演出は本市を拠点に演劇活動を展開している高橋瑛子さん（瑛子語り草子の会代表）、脚本と斎藤實役を渡部明さんらが担います。出席した人たちは、来年2月7、8日の公演に向け、初日から早速台本の読み合わせを始めていました。出演者には、市内の小学生や高校生なども予定されています。



主な出演者らが出席した旗揚げ

まえさわ

過去最多のランナーが競う

前沢マラソンに約3千人が参加



一斉にスタートする10キロの部のランナー

第26回奥州前沢マラソンは11月2日、前沢スポーツセンター前を発着点とする、日本陸連30キロ公認コースで行われました。今大会には過去最高となる3035人がエントリー。時折雨が降る天気の下、今回から一新された公認コースで健脚を競いました。

大会は、30キロ、ハーフを皮切りにウオーク、10キロ、ミニマラソン（4.21キロ）、ハーフミニ（2.1キロ）の順でスタート。招待選手の吉田香織さん（セカンドウィンドAC所属）が参加した10キロの部には、最も多い1018人が出場しました。ランナーは沿道の住民から温かい声援を受け、息を弾ませながら晩秋の前沢路を駆け抜けました。

小さな体から命の重さ実感

衣川中の生徒が乳幼児と触れ合い

思春期を迎える中高生らに、乳幼児との触れ合いを通して命の大切さを知ってもらおうと10月23日、衣川保健福祉センターで、乳幼児ふれあい体験学習（奥州保健所主催）が開かれました。

衣川中学校3年生の38人は、事前に講義を聞いた上で体験学習に臨みました。2カ月から3歳まで乳幼児14人の行動や反応に戸惑いを見せる生徒が続出し、親の大変さを痛感した様子でした。体験を終えた生徒たちは「小さい子と触れ合うことで学ぶことが多かった」「泣かれて思いどおりじゃなかったけど、命の重さを感じた」などと感想を発表していました。



中には上手に乳児を抱く生徒も